

OIH開設(平成25年度)から平成28年度の関西のイノベーションエコシステムの構築状況と今後のOIHの役割について

- ・関西では、大企業等のオープンイノベーション志向が高まり、多くのファンドも立ち上がっている。
- ・国内外ネットワークが拡大したOIHは、イノベーション文化を発信し、起業家を呼び込み育て、それらにつなげていく。

起業家増加をめざす

起業家

(学生・イントラプレナー含む)



大企業等



- ・ダイキン、パナソニック(オープンイノベーション施設)
- ・NTT西、凸版印刷、MBS、YTV、トヨタ・・・(ハッカソン等イベント)

大学の技術シーズ発プロジェクト外の事業化をめざす

大学等

(技術、研究者、学生)

- ・関西の多数の大学研究機関
- ・関大・大工大梅田キャンパス
- ・文科省起業家教育



OSAKA INNOVATION HUB

- ・国境、組織等を超えてつなげる場
- ・“オープンイノベーション都市”の発信、ブランディング
- ・起業家マインド醸成、スキル向上を支援

【平成25年～平成28年】

- ・オープンイノベーション志向高まり、独自活動活発
- ・関西の資金供給機能向上
- ・官民のアクセラレーション機能充実

海外のゲートウェイ化をめざす(起業家の国際往来支援)

ベンチャーキャピタル等



- オムロンベンチャース
- けいはんなATRファンド
- 梅田スタートアップファンド
- グローバルイノベーションファンド
- ABCドリームファンド
- 阪大ベンチャーファンド
- アシックス・ベンチャース
- JR西日本イノベーションズ
- など 2014年～予定含め600億円超

関係ができた世界のイノベーション支援機関
(シリコンバレー、フレンチテック(仏)、深圳、テルアビブ、オランダ、ピッツバーグ、シンガポール・・・)

株式上場 合併・買収

